（別紙様式4）

令和8年10月1日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
東京アニメーター学院専門学校	平成28年11月18日	鈴木　智也	〒　101－0065 （住所）　東京都千代田区西神田1丁目3番1号 （電話）　03－5276－1511
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中本　毎彦	〒　101－0065 （住所）　東京都千代田区西神田1丁目1番3号 （電話）　03－3292－6266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	アニメーション学科	平成30(2018)年度	－	令和 4(2022)年度

学科又は専攻科の目的	本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、文化・教養の分野に関する教育を施し、人格の陶冶を行い、もって有為な出版映像関連事業者を育成することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	アニメーションの制作技術を中心に、同業界で働く為の専門知識と技術を学んでいます。学生の多くはアニメーション制作会社への就職することを目標に学んでいます。取得可能な資格はありませんが、就職に必要な場合、任意で取得を促します。関連業界など一般就職希望者にも教務及び就職専任スタッフが個別面談を進め、個人の資質、適正及び能力と属性を十分に考慮した指導を実践して、入社後を見据えた指導を行ないます。

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2　年	昼間	単位	2 単位	68 単位	0 単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
80 人	53 人	1 人	0 %	14 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	21	人
■就職希望者数 (D)	1	人
■就職者数 €	1	人
■地元就職者数 (F)	0	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	0	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	0	%
■進学者数	0	人

■その他

フリーランス・自営業・業務委託による就職：20名

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

㈱ディーロク、シーステーション㈱、㈲スタジオエル、㈱スタジオ五組、㈱スタジオディーン、㈱スタジオピーコック、㈱スタジオリングス、㈱手塚プロダクション、㈱マカリア、㈱横浜アニメーションラボ、㈱ランドック・スタジオ、アニメ業界など

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/tokyo_anime/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

総単位数		62 単位
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した演習の単位数	14 単位
	うち必修単位数	14 単位
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	0 単位
	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	14 単位
	（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	0 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	0 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	0 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	3 人
計		3 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	3 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年8月28日　16:30～17:30/第2回　令和8年3月26日　15:30～16:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
大野　正拓	デジタル出版社連盟コミックビジネス研究部部会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	①
浅尾　芳宣	株式会社BENTEN Film　代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日（2年）	③
鈴木　智也	東京アニメーター学院専門学校　校長	-	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
制作実習1	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	アニメーションの企画から絵コンテ、カメラワーク、レイアウト等を学び、グループ制作を行う準備をします。演出修正や作監修正など作品のクオリティーを上げるための学習や指導をおこないます。	株式会社BENTEN Film
制作実習2	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	複数のオリジナル作品の絵コンテを選定し、決まった作品（①）をクラスで制作します。レイアウト・原画・動画・彩色・背景・撮影・編集・録音と、プロの指導で行程や作画を学びます。	株式会社BENTEN Film
制作実習3	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	複数のオリジナル作品の絵コンテを選定し、決まった作品（②）をクラスで制作します。レイアウト・原画・動画・彩色・背景・撮影・編集・録音と、プロの指導で行程や作画を学びます。	株式会社BENTEN Film

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。なお、これらは、「大原学園 教職員研修規程」の目的に定めており、教職員が専攻分野に関する知識・技能・企画力・判断力を高めるため環境を整備し、所属長の指示または本人の意思により公平に研修などを受講する機会を与えるものとし、計画的、組織的、継続的に取り組んでいくこととする。校内、校外において企画する研修は下記の通り。
①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を派遣した実践的な知識・指導スキル研修
②関連業界の実務家講師を招いた研修会の実施及び、外部研修会への参加
③関連業界の制作現場視察や技術研究

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「生成AIを使用した音楽制作と指導方法について」　連携企業等：株式会社サイプレス
期間：令和8年7月9日　対象：教職員・担当者
内容：現在実施している授業科目に生成AIを取り入れる。今回は例として、生成AIで学生達に作らせたオリジナル楽曲で、ボーカルレッスンを指導する方法を確認した。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：「教員が使えるカウンセリング技術　基礎編」　連携企業等：：東京都専修学校各種学校協会
期間：令和8年8月28日　対象：教職員・担当者
内容：発達障害やグレーゾーンの学生が増加する中、本研修では、教員が教育現場で活用できるカウンセリング技術について学んだ。

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：「PC教室利用の際のネットワーク構築と管理について」　連携企業等：未定
期間：令和9年3月予定　対象：教職員・担当者
内容：パソコン教室で授業を行なう際、課題の配布や学生からの課題提出をネットワークサーバーを使っているが、授業中のトラブル発生に対応できない教職員が多い。速やかに対応ができるよう研修を行う。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：「生成AIで仕事は変わるのか 何ができる どれだけ速い どう選ぶ」　連携企業等：株式会社大塚商会
期間：令和8年11月5日　対象：教職員・担当者

内容	生成AIは、私たちの仕事をどこまで変えられるのでしょうか。本セミナーでは、「何ができる？」「どれだけ速い？」「どう選ぶ？」という三つの視点から、生成AIの実力を対談形式のセミナーで分かりやすく解説します。

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1 教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1 教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2 教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3 単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4 学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得(資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。)についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2 自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
4 学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1 教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている

②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1 教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2 安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3 施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1 中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2 学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3 学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4 社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

(3)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名 前	所 属	任期	種別
大野 正拓	デジタル出版社連盟コミックビジネス研究部部会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界団体役員
浅尾 芳宣	株式会社BENTEN Film 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
園江 泰洋	株式会社バニラシュガースタジオ プロデューサー	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
森田 和義	株式会社サイプレス チーフプロデューサー	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
浅野 健一	株式会社向陽デジタルワークス代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	平成38年10月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	平成38年10月30日		

授業科目等の概要

	（文化教養専門課程 アニメーション学科）														
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○	－	－	基礎デッサンⅠ	対象物をよく観察、把握し、物の特徴や印象を捉える力を養う	1前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
2	○	－	－	基礎描写Ⅰ	トレスの意味を理解し、質感の出し方や作業スピードの上げ方を学ぶ	1前	3	－	○	－	○	－	－	○	－
3	○	－	－	基礎描写Ⅱ	タップ割りの理解し。キャラクターの動き、ツメのある動画を学ぶ	1前	3	－	○	－	○	－	－	○	－
4	○	－	－	パース基礎Ⅰ	パース、空間の奥行きや立体感・質感・光の陰影など描写法を学ぶ	1前	2	－	○	－	○	－	○	－	－
5	○	－	－	キャラクター描写Ⅰ	キャラクターを描く上で、質感、アングル、動きのある描写を学ぶ	1前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
6	○	－	－	基礎描写Ⅲ	人間の歩き・走り・振り向きなど基本となる動きの描写方法を学ぶ	1前後	4	－	○	－	○	－	－	○	－
7	○	－	－	アニメーション制作Ⅰ	企画・設定、絵コンテ、レイアウト、原画、動画、背景制作を学ぶ	1前後	4	－	○	－	○	－	○	△	○
8	○	－	－	基礎デッサンⅡ	対象物をよく観察、把握し、物の特徴や印象を捉える力を養う	1後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
9	○	－	－	背景実技Ⅰ	べた塗り、グラデーション、遠近感の出し方、光と影の描写などを学ぶ	1後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
10	○	－	－	キャラクター描写Ⅱ	キャラクターを描く上で、質感、アングル、動きのある描写を学ぶ	1後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
11	○	－	－	キャラクター描写Ⅲ	アニメのレイアウト描写。背景設定や指定のパースに人物をのせて描く	1後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
12	○	－	－	キャリアデザインⅠ	自己分析、自己PR、業界研究、模擬面接	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－

13	○	－	－	ポートフォリオ制作Ⅰ	就職活動に必要な絵を描きながら、絵のレパートリーや技量を高める	1後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
14	－	○	－	デジタル彩色Ⅰ	アニメの彩色技術、作画や撮影の指定、合成や特殊効果を学ぶ	1前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
15	－	○	－	デジタル彩色Ⅱ	アニメ制作実習と連携し、完成した動画を彩色する	1後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
16	○	－	－	基礎デッサンⅢ	デッサンの精度を上げ、より的確かつ速度を持って描く力を養う	2前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
17	○	－	－	基礎描写Ⅳ	制作現場に対応できる動画技術とスピードアップを学ぶ	2前	3	－	○	－	○	－	－	○	－
18	○	－	－	基礎描写Ⅴ	制作現場に対応できる動画技術とスピードアップを学ぶ	2前	3	－	○	－	○	－	－	○	－
19	○	－	－	キャラクター描写Ⅳ	人間以外のキャラクターやアクションシーンの描写を学ぶ	2前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
20	○	－	－	パース基礎Ⅱ	建物の室内図、外観図、パースやアングルを変更して描く技術を学ぶ	2前	2	－	○	－	○	－	○	－	－
21	○	－	－	レイアウト実技Ⅰ	絵コンテをもとに内容確認し、タイムシート、レイアウトや原画を描く	2前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
22	○	－	－	キャリアデザインⅡ	自己分析、自己PR、業界研究、模擬面接	2前	1	－	○	－	○	－	○	－	－
23	○	－	－	ポートフォリオ制作Ⅱ	就職活動に必要な絵を描きながら、絵のレパートリーや技量を高める	2前	2	－	○	－	○	－	○	－	－
24	○	－	－	背景実技Ⅱ	Photoshop技術の確認、リアル表現の基礎、美術ボードの作成	2後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
25	○	－	－	レイアウト実技Ⅱ	オリジナル作品の絵コンテをもとに、タイムシート、レイアウトや原画を描	2後	2	－	○	－	○	－	－	○	－
26	○	－	－	アニメーション制作実習Ⅱ	卒業制作　レイアウト、原・動画・彩色・背景・撮影・編集・録音	2後	5	－	○	－	○	－	○	△	○
27	○	－	－	アニメーション制作実習Ⅲ	卒業制作　レイアウト、原・動画・彩色・背景・撮影・編集・録音	2後	5	－	○	－	○	－	○	△	○

28	－	○	－	映像制作Ⅰ	動画制作ツールを使用し、ショートムービーを作る	2前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
29	－	○	－	映像制作Ⅱ	動画制作ツールを使用し、ショートムービーを作る	2前	2	－	○	－	○	－	－	○	－
合計					29 科目　　0 単位										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	（修了・卒業の認定） １．第19条に定める授業時間数を履修し、かつその該当する所定の授業科目について合格に達して、卒業資格を得た者には、卒業証書を授与する。 ２．校長は、本校所定の課程を修了したと認めた者には、卒業証書を授与する。 （１）アニメーション学科　６２単位	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	（試験等） １．学業成績は、授業科目ごとに行う試験によってこれを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。 ２．試験には定期試験、追試験又は再試験がある。追試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、再試験は、受験の結果、不合格となった者のためにこれを行う。 ３．追試験及び再試験は，本校において必要と認めた場合これを行う。 （学業成績） １．学業成績の判定は、秀、優、良、可、不可の５種をもってこれを表し、秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は60点未満とする。	１学期の授業期間	19 週